

UNWTO Regional Support Office for Asia and the Pacific 世界観光機関 (UNWTO) アジア太平洋センター



平成 27 年 7 月 14 日

UNWTO アジア太平洋センターが「メコンツーリズムフォーラム 2015」において、河川観光及び河川・海洋クルーズに関するワークショップを開催しました。

2015 年 6 月 15 日～19 日に、ベトナム・ダナン市で開催されたベトナム文化・スポーツ観光省 (MCST)、観光総局 (VNAT) 及びダナン市の主催による「メコンツーリズムフォーラム 2015」において、UNWTO アジア太平洋センター (RSOAP) はメコンツーリズム調整事務所 (MTCO)、太平洋アジア観光協会 (PATA)、タイ旅行業協会 (ATTA)、グローバル・サステイナブル・ツーリズム協議会国際基準 (GSTC)、タイのタマサート大学と連携及びアジア開発銀行 (ADB) の協力を得て「メコン観光マーケティングワークショップ」を開催しました。同ワークショップでは大メコン圏が必ず複数国を周遊することが当然となる行動計画を立てることにあり、各国政府・政府観光機関関係者、国際開発機関、ホテル関係者、ツアーオペレーター、メディア等から約 100 名の参加がありました。

同ワークショップでは、以下の UNWTO による調査 (※1) を基に 4 つのテーマについて議論が行われました。

1. 大メコン圏の河川をテーマにした観光の探求
2. 広域地域観光における観光目的地のマーケティング
3. インフラ開発ニーズと機会
4. 交通による移動を前提とした河川観光の商品開発

【議論の結果】

成長を続けるアジアの送客市場に対するクルーズツーリズムとその産業の成長に焦点をあてた議論が行われました。

- ・現在の市場はマストツーリズムからより地域に根ざした体験を求める傾向にあり、地域文化を掘下げた観光促進は良い機会となる。
- ・大型船のためのインフラ建設を行った場合でも地元地域が恩恵を受けにくい場合がある。「港のインフラ開発」及び「商品開発」は相互関係にある故、河川・海洋クルーズ部門における官民の連携が最優先されるべきである。
- ・同じコースデザインであっても観光客にとって長期間滞在可能なデスティネーションの創造が必要である。また、様々な客層のニーズに応えるニッチな市場も視野に入れた商品開発が期待される。

【今後の展開】

- ・河川に基づく地元の文化や遺産などテーマにした河川・海洋クルーズ観光開発の検討
- ・既存の海洋クルーズ船が大メコン圏の複数の国を周遊していることに対する認識の促進

【同ワークショップにおける議論の材料になった UNWTO による調査】 (※1)

1. 「ASEAN における河川観光の現状分析」
2. 「持続可能なクルーズ開発戦略：東南アジアにおけるコースデザインにおける課題への取組み」 (※2)

(※2) UNWTO アジア太平洋センターがアジア観光交流センター (APTEC) の支援を得て、UNWTO 本部、国土交通省外航課、観光庁、ASEAN 事務局、シンガポール政府観光局の協力の下で実施した調査。調査内容は、特に受入地域にメリットをもたらす持続可能なクルーズ開発を実現するために、地域の寄港地とバリューチェーンの分析に重点を置き、東南アジアにおける持続可能な海洋クルーズ開発戦略とベストプラクティスをまとめたもの。尚、同調査は出版物として UNWTO 本部より発行する予定です。同調査のエグゼクティブ サマリーをご覧になりたい方は RSOAP のウェブサイト (<http://www.unwto-ap.org/>) から新着情報「メコン観光マーケティングワークショップ」をクリック！。また更に詳しい情報をお知りになりたい方は下欄にある問合せ先までご連絡下さい。



RSOAP 事業・広報部 課長
ハーモニー ラム

「持続可能なクルーズ開発戦略：東南アジアにおける
コースデザインにおける課題への取組み」
調査担当 コンサルタント エリック リカルテ



ワークショップの参加者の様子

大メコン圏からの政府観光機関代表者

(お問い合わせ先)
 国連世界観光機関(UNWTO)アジア太平洋センター
 (一般財団法人アジア太平洋観光交流センター)
 担当：藤永、吉田
 電話：0742-30-3880 Fax：0742-30-3883
 E-mail: info@unwto-aptec.org